

市村憲治先生への献辞

総合管理学部長 松野了二

市村憲治先生は、1993（平成5）年10月に、熊本県立大学の前身である熊本女子大学に教授（学長付）として着任され、2007（平成19）年3月末に定年でご退職される。この13年間半、総合管理学部の教育・研究の発展に大きく貢献され、偉大な足跡を残された。ここに深謝の意を表する次第である。

市村先生は、1964年3月に熊本大学工学部電気工学科を卒業後、すぐに東京芝浦電気株式会社（現株式会社東芝）に入社され、1975年3月まで同社の第一線で活躍された後、同年4月から1993年9月まで八代工業高等専門学校の情報電子工学科で教育・研究に携わられた。前述のとおり、熊本県立大学（の前身である熊本女子大学）には1993年10月に学長付の教授として着任され、熊本県立大学設立準備委員の1人として、熊本県立大学の情報関連施設の設計・整備や熊本県立大学全体の情報関連教育カリキュラムならびに総合管理学部の情報関連教育カリキュラムの作成等に多大な寄与をされた。

熊本県立大学発足後は、教育分野においてはコンピュータの基礎やコンピュータリテラシー、プログラミング等の科目を担当され、学生のコンピュータに関する技能向上にご尽力された。特に、コンピュータリテラシー関連の教育に関しては、総合管理学部の特徴に応じた教科書作りが必要であることを力説され、「1995年4月（熊本県立大学発足1年後）からの講義に間に合うように」と市村先生を中心に情報系教員で分担し、「文化系学生のためのコンピュータリテラシー」という書名の教科書を出版したことが思い出される。情報系分野の発展はすさまじく、この手の教科書はあっという間に古くなるが、4年後の1999年には、再び市村先生が中心となり、時代に即した新版の教科書「Windows と応用ソフトウェア」を出版したことも、また、記憶に新しい。この流れは現在でも継続しており、情報系（現在では情報管理コース）教員の手作りによる Web

ベースの教科書として発展した形で残っている。

上記の教育分野でも触れたように、市村先生は「総合管理学部の特徴に応じた情報処理教育が必要」との観点から、教育法についての研究に興味を示され、「総合管理学部におけるプログラミング教育」など、情報処理教育についてアドミニストレーション誌に何篇かの研究論文を報告され、さらに、総合管理学部10周年記念論文集には「総合管理学部における情報系教育10年史」というタイトルで10年間を振り返った教育研究の成果を報告された。また、教育法についての研究以外でも日赤との共同研究、「日赤：健康管理センターの人間ドックで蓄積されたデータを活性化する情報システムの研究と開発（中間報告）」など外部機関との共同研究活動も幅広く行われてきた。

大学運営に関しては、市村先生は1996年4月から1998年3月までと、2005年4月から2006年3月までの計3年間評議員、2001年4月から2003年3月までの2年間附属図書館長を務められた。図書館長時代には、図書館の入館管理をバーコードで行う図書館入館システムを構築された。我々は現在でも、このシステムの恩恵にあずかっていることを市村先生のご功績のひとつとして追加しておきたい。この他、学部においては情報系の主任を長きに渡って務められ、大学・学部双方の運営に多大な功績を残されている。

社会活動の分野でも、市村先生は1999年に熊本農業情報センター理事、2000年に玉名市総合情報計画策定委員長、2001年には熊本県学校教育支援システム選考委員長及び山鹿市高度情報化計画策定委員長と多くの委員長を歴任され、熊本県の教育、行政、農業の情報部門で多大なる寄与をされている。

以上、市村先生のご経歴及び熊本県立大学におけるご業績について簡単に紹介させていただいた。最後に、市村先生が今後もお元気で充実した日々を送られることを切に願うものである。